

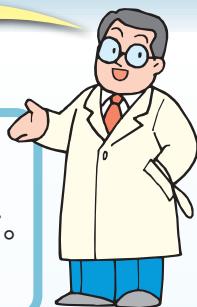
# マダニによる感染症に注意しましょう!

春から秋(3月～11月)にかけてマダニの活動が活発になります。農作業やレジャーなどで野山、畑、草むらなどに入る場合は、マダニに咬まれないように十分準備をしてから出かけましょう。



出典：国立感染症研究所

マダニに咬まれないことが、一番の予防です。



## マダニの特徴

- シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。
- 民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息していますので、日頃から注意が必要です。
- イエダニとは違い、刺されても気が付かないこともあります。

## マダニに咬まれないために



イラスト出典：国立感染症研究所

- 虫よけ剤(ディート含有)を服の上からかけ、虫のつく数を減らしましょう。
- 上着や作業着は外で脱ぎ、家の中に持ち込まないようにしましょう。
- 野外活動の後は、シャワーや入浴時に、からだにマダニがついていないか、確認しましょう。

## もしマダニに咬まれてしまったら

- 吸血中のマダニを見つけたら、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関を受診し、処置を受けてください。(無理に取り除くと、口器が皮膚に残り、炎症を起こします。)
- マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意し、発熱等の症状が出た場合には、早めに医療機関を受診してください。

## ウイルスをもったマダニを介してうつる感染症

- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)
- 【潜伏期間】6日～14日
- 【症状】発熱、食欲低下、嘔吐、下痢  
重症化すると死亡することもあります。
- 【その他】有効な治療薬やワクチンはありません。

## ダニを介してうつる他の感染症

- マダニ：日本紅斑熱、ライム病  
ツツガムシ(ダニの一種)：つつが虫病

金沢市保健所 金沢市西念3丁目4番25号 FAX 234-5104

問い合わせ先

感染症について  
地域保健課 TEL 234-5102

環境衛生について  
衛生指導課 TEL 234-5114

# 蚊による感染症に注意しましょう!



主に5月中旬から10月下旬にかけて、ヒトスジシマカが活動します。

蚊に刺されない、蚊の発生を減らすことが一番の予防です。



## 蚊に刺されないために

- 外出時は肌の露出を減らしましょう。
- 虫よけ剤（ディート含有）や蚊取り線香を使用しましょう。
- △海外旅行の時も注意しましょう。
- 屋内では網戸を使用し、蚊の侵入を防ぎましょう。



イラスト出典：政府広報オンライン

## 蚊の発生を減らすために

- 週に1度、家の周りを点検し、不要な水たまりを減らしましょう。（幼虫（ボウフラ）対策）



イラスト出典：政府広報オンライン

- 雑草を定期的に刈り取り、蚊の住処を減らしましょう。（成虫（蚊）対策）

## 日本国内で感染の可能性がある、ウイルスをもった蚊を媒介してうつる感染症

- 主に海外の流行地で、ウイルスをもった蚊に刺されると感染します。
  - 蚊に刺された後に、発熱や頭痛の症状があれば、医療機関を受診しましょう。
  - ウイルスに感染した人の血を吸った蚊（日本国内ではヒトスジシマカ）が他の人を刺すと感染します。
  - 流行地からの帰国後、特に2週間は蚊に刺されないようにしましょう。
- ※感染しても発症しない、発症しても症状が軽いこともあります。



イラスト出典：政府広報オンライン

	デング熱	ジカウイルス感染症	
潜伏期間	2日～14日	2日～12日	
症 状	38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹など	軽度の発熱、発疹、頭痛、筋肉痛など	
流行地	東南アジア、中南米等熱帯、亜熱帯の全域	中南米、アジア・西太平洋地域等	
その他	多くの人は1週間程度で回復し、ごくまれに重症化することがあります。	胎児の小頭症との関連があり、流行地への渡航後は男女問わず6か月間性交渉の際に適切にコンドームを使用するか、性行為を控えるようにしてください。また、妊娠中は流行地への渡航を避けてください。	

他に、発熱、関節痛を伴うチクングニア熱があります。

いずれもワクチンはありませんので、蚊に刺されないようにしましょう。